

学習支援活動の展開

1 2016年度を振り返って

2016年度の学習支援活動の開催数は340回、参加者は延べ約1万5千人となった(下表参照)。

活動の中心となる授業、学部・研究科オリエンテーションでの支援のほか、恒例の図書館主催企画となった、図書館情報検索ワークショップ、データベース講習会を開催した。下表には含まれない間接的な支援として、中央図書館セルフツアー、新入生歓迎イベントLibrary Week、ビブリオバトルも継続して開催した。

学生ボランティアスタッフLIVSの活動は4年目に入り、図書館紹介冊子を創刊したほか、展示、資料活用記事のWeb連載など、さまざまな企画を実施した。

学内連携としては、イベント共同開催、職員研修への参画、大学広報との連携、動画コンテンツの制作・公開のほか、多様な利用者を支援するための取り組みをはじめた。

新たな試みとしては、スチューデント・ジョブ創出の取り組みとして、授業支援でのティーチング・アシスタント(TA)採用と、学習支援の事務補助業務を行う有償学生スタッフの雇用を開始した。また、新たな学びの場の検討として、所沢図書館ではラーニング・コモンズ開設準備を進め、中央図書館では利用動向の調査・分析をもとに、図書館ならではのラーニング・コモンズ設計に向けた検討を行った。

2 授業支援の実施

学習支援活動の中心となるのは、学部・研究科単位および個別の授業・ゼミ単位での授業支援で、開催数は全体の71%を占め、参加者数は延べ8,405人となった。参加者数は、法学学術院・商学学術院で行った大規模支援により、前年度に比べて、やや増加した。

学術院別にみると、政治経済学術院と文学学術院の参加者が半数近くを占める。これは主にそれぞれ「基礎演

習」、「必修基礎演習」という学部1年生全員が対象の授業を支援していることによる。

中央図書館では、学生がスタンプを集めながら館内をめぐるセルフツアーを通年で開催しており、初年次の早い段階で図書館を知ってもらう手段として、上述の両学術院のほか、多くの学術院の授業で利用されている。授業外の個人での参加もあり、2016年度の参加者は延べ2,546人となった。

学習支援活動に携わる図書館職員(アカデミック・リエゾン)は、2017年4月現在で総勢27人である。セルフツアーの活用に加え、文学学術院の「必修基礎演習」では、学術院予算で雇用したティーチング・アシスタント(TA)をサポート要員にあてたことにより、リエゾン1人あたりの支援回数は落ち着いてきている。

3 図書館主催講習会の開催

(1) 図書館情報検索ワークショップ

2016年度も例年同様、春学期と秋学期に図書館情報検索ワークショップを開催した。

春学期は、6月下旬から7月初旬にかけての3週間、全19コマ(中央図書館13、早稲田キャンパス4、戸山キャンパス1、所沢図書館1)開催し、参加者数は延べ92人であった。秋学期は、10月下旬から11月中旬の3週間、全19コマ(中央図書館11、早稲田キャンパス7、所沢キャンパス1)開催し、参加者数は延べ91人となった。

開催プログラムは、基本的な情報検索の方法を学ぶものに加え、文献管理ツールRefWorksの実習や大学院生以上を想定したプログラムを設け、好評を得た。秋には、留学生や英語話者向けに英語でのプログラム(6コマ)も開催した。

2014年度より開始した、ライティング・センターとの協同プログラムは、春・秋ともに、早稲田キャンパスで2コマ(日・英各1)、所沢キャンパスで1コマ開催した。資料の収集から文章の構想といった、レポート作成にかか

2016年度学習支援活動

	学生等参加者数 (人)	図書館職員講師数 (人)	図書館職員 サポート員数(人)	開催数(回)	開催当たり 要員数(人)
学部新入生向けオリエンテーション	5,193	11	18	11	2.6
大学院新入生向けオリエンテーション	675	17	13	17	1.8
授業支援:学部・研究科単位	6,181	87	179	192	1.4
授業支援:個別授業・ゼミ対応	2,224	47	73	50	2.4
就職支援	165	0	9	5	1.8
図書館主催企画など	541	42	91	65	2.0
合計	14,979	204	383	340	1.7
2015年度	13,961	215	442	332	2.0
2015年度との比	107.3%	94.9%	86.7%	102.4%	

わる一連の作業を体系的に学べることから、受講生からの評価は非常に高いものとなった。

ワークショップの既存プログラムについては、コンテンツの定型化が進み、運営も安定してきている。ライティング・センターをはじめとする学内関連部署との連携を一層深めながら、学生のニーズをふまえたプログラム立案や、2015年度に作成した自学自習用コンテンツの一層の周知など、工夫を行いながら継続して開催していきたい。

(2) データベース講習会

高田早苗記念研究図書館では、6月と11月に、主に大学院生向けの法学、経済・商学、教育学関係を中心とした13種のデータベースの講習会を行い、延べ128人の参加があった。

戸山図書館では、他大学から進学した大学院生向けのガイダンスを4月に開催し、図書館概要、文献の入手方法、研究に有益なデータベース等を案内した。

理工学図書館では4月に理工系データベース講習会を合計6コマ、所沢図書館では7月に心理学・スポーツ科学系のデータベース講習会を開催した。

4 図書館主催イベントの開催

(1) Library Week

2016年度も、新入生歓迎イベントLibrary Weekを春と秋に開催した(次ページ表参照)。

1 春のLibrary Week

春のLibrary Week(2016年4月13日～4月19日)は、戸山図書館で開催した、英語の読解力向上を目指す利用者のための多読体験会といった、学習に密着したイベントや、所沢図書館における、2015年に出版された教員の著書の展示が、特色あるイベントとして挙げられる。



「始めよう! 英語多読」

2 秋のLibrary Week

秋のLibrary Week(2016年10月3日～10月7日)は、恒例の展示やコンサートといったイベントに加え、理工学図書館で初のトークイベントを行った。また、中央図書館開館25周年記念事業との共同企画を実施した。

3 今後の展開

2013年4月の初回のLibrary Weekから4年が経ち、実



「私の電子ブック活用法」

施回数も通算8回を数えるに至った。学内で広報される機会も増え、Library Week自体の認知度も徐々に向上してきている。今後もLibrary Weekを継続して開催し、図書館利用の促進につながるイベントはもちろんのこと、早稲田大学図書館の特色や魅力を存分に伝えられる企画の考案、実施にも取り組んでいきたい。

(2) 知的書評合戦ビブリオバトル

中央図書館では、2013年から開催している読書推進イベント「ビブリオバトル」を、6月29日(水)、10月5日(水)、10月12日(水)の合計3回開催した(各80分)。

ビブリオバトルは、バトラー(発表者)が5分間でお気に入りの本を紹介し、2～3分のディスカッションを経て、参加者全員の投票で「チャンプ本」(一番読みたくなった本)を決める書評合戦である。春学期6名、秋学期11名(5日6名、12日5名)の延べ17名のバトラーが参加した。チャンプ本紹介者にはローリー ゲイ図書館副館長より、図書館長名の賞状および副賞の図書カードが授与された。例年どおり早稲田大学生協ブックセンター、紀伊國屋書店(新宿本店)で開催した紹介本のブックフェアではバトラーの直筆POPが展示された。

秋学期は、12月に京都大学で開催された「全国大学ビブリオバトル2016～京都決戦～」を目指す予選会として開催し、チャンプ本紹介者2名が地区決戦へ出場した。ICC主催の英語ビブリオバトル(11月18日)と広報等で協力し、秋学期のバトラー2名はICCでもバトラーとして参加した。

(参考)

知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト

<http://www.bibliobattle.jp/>

5 学生による学習支援の展開と整備

(1) スチューデント・ジョブ創出の取り組み

大学の中長期計画Waseda Vision 150が掲げる「大学の教育・研究への積極的な学生参画の推進」に資するため、学生の志向、能力、専門性を活かした図書館におけるスチューデント・ジョブの創出に取り組んだ。

具体的には、まず春学期に戸山図書館において、文学

学院「必修基礎演習」のうち図書館が協力する「情報検索講習会」に際し、サポート要員として学院予算枠のTA採用を開始した。

また、大学が2017年度から開始する、学びの場における学生の学習支援を担う自学自修TA(LA)制度を視野に入れ、中央図書館および所沢図書館ラーニング・コモンズにおけるLA配置のための検討を行い、2017年度より「図書館ラーニング・アシスタント」として雇用を開始することになった。

中央図書館ではLA制度に先行して、秋学期に有償学生スタッフの雇用を開始し、図書館職員による学習支援の事務補助業務に従事した。

(2) 図書館ボランティアスタッフLIVSの活動概要

活動4年目に入った図書館ボランティアスタッフLIVSの在籍メンバー数は2016年6月時点で学部学生39名、大学院学生3名、合計42名となり、2016年度はLibrary

Weekとの連動企画も含め、次のとおり活動した。

1 図書館紹介冊子『りふまぐ!』の創刊(4月)

本や図書館の魅力を多くの人々に発信し、図書館の利用を推進することを目的として、LIVS初の冊子『りふまぐ!』を作成した。中央図書館蔵書としても受け入れられ、雑誌コーナー(鳩の巣書架)に配架された。



2 新生活応援します!わたしの一行キャンペーン (4/13-19のLibrary Week期間~ 5/26まで掲出)

「教員から新生に贈る一行」として実施していた企画をLIVS企画として一新し、全17作品を中央図書館2階に掲出。新生を迎えるに相応しい一行が並んだ。また、Twitterに特設アカウントを作り学生からも作品を募集するなど、新たな形での展示企画となった。

Library Week実施企画一覧

2016春

主催	企画	概要
中央図書館	中央図書館セルフツアー	館内10か所に設置されたポイントをめぐりクイズに答えるスタンプラリー形式のツアー(日英対応)
	展示「風雲の志~幕末維新を生きた志士たちの言葉」	幕末維新の志士による自筆資料の展示、ならびにギャラリートーク
	展示「新生活応援します!わたしの一行キャンペーン」	図書館ボランティアスタッフLIVSによる展示
	ブックトーク	教員が新生にぜひ読んでほしい本について語るトークイベント
	ライブラリーコンサート	館内にて学生サークル(ギター、管弦楽)による実演
	ライブラリークイズ	Web上での図書館資料・サービスに関するクイズ(日英対応)
戸山図書館	戸山図書館セルフツアー	館内5か所に設置されたポイントをめぐるスタンプラリー形式のツアー
	始めよう!英語多読	英語多読をはじめたい方向けに「多読体験会」を実施
所沢図書館	展示「トコロザワの底力ー先生方の著書2015ー」	人間科学部・スポーツ科学部の教員が2015年中に出版した図書を展示

2016秋

(※は中央図書館開館25周年記念事業企画)

主催	企画	概要
中央図書館	中央図書館セルフツアー	館内10か所に設置されたポイントをめぐりクイズに答えるスタンプラリー形式のツアー(日英対応)
	写真展「図書館今昔」※	中央図書館開館25周年を記念し、建学当時から中央図書館開館までの図書館の軌跡を写真で振り返る
	展示「公家と武家中世史」	早稲田大学所蔵の貴重な古文書を展示し、中世に活躍した公家と武家の足跡をたどる
	展示「こんな本があったんだ!」	図書館ボランティアスタッフLIVSによる展示
	図書館コンテンツ360° VR体験 VRゴーグルお披露目※	貴重な古典籍資料や、ブックロボが書庫から本を出納の様子などを360° VR映像で体感する
	講演会「私と図書館」※	早稲田大学出身の芥川賞作家、堀江敏幸氏(文学学術院教授)と綿矢りさ氏が大学図書館の魅力や思いを語るトークイベント
	全国大学ビブリオバトル予選会	全国大学ビブリオバトル地区決戦に出場する早稲田大学の代表を決める予選会
	ライブラリーコンサート	館内にて学生サークル(琵琶、管弦楽)による実演
ライブラリークイズ	Web上での図書館資料・サービスに関するクイズ(日英対応)	
理工学図書館	トークイベント「私の電子ブック活用法」	教員が電子ブックの効果的な活用法について語るトークイベント

3 #文庫川柳(8月)

SNSを中心に注目を集めていた、本の背表紙を使用し、タイトルをつなぎ合わせ川柳やメッセージを作る「#文庫川柳」にチャレンジした。オープンキャンパスにあわせた企画として、未来の早稲田生に向けたメッセージが並んだ。

4 こんな本があったんだ！

(10/3-7のLibrary Week期間～10/14まで展示)

「面白いタイトルの本」と「東京」の2つのテーマを設けて、9月入学者への図書館紹介も念頭に置き、図書館の資料をLIVSスタッフの目線で紹介する企画展示を実施した。個性あふれる手作りのポップや紹介文が並び、多くの人が足を止めていた。

**5 地下書庫探検隊！～発掘！早稲田のBBN 第二弾～
(12/23～2017/4/28 全13回連載)**

昨年学内外から大きな反響を得た企画の名称を改め、「地下書庫探検隊！」として連載を再開。今回も研究書庫やバックナンバー書庫の資料をふんだんに活用し、スタッフの興味関心や時節に合わせた、个性的かつ学生目線の記事が並び好評を博した。

(参考)

地下書庫探検隊！～発掘！早稲田のBBN 第二弾～

<https://www.waseda.jp/library/news/2016/12/15/2679/>

6 学生協働ワークショップ in 東京2016(3/1)

各大学図書館における「学生協働」への取り組みや活動事例を共有し、更なる活性化を目的としたイベント。今回は立教大学が幹事校となり、LIVSも一参加校として全15団体が参加した。LIVSスタッフも他大学の学生と積極的に交流し、双方に良い刺激となっていることが伺えた。



学生協働ワークショップ

6 新たな学びの場における支援

Waseda Vision 150が掲げる多様な学習スタイルを実現させるため、利用者のニーズに基づいた、図書館ならではのラーニング・コモンズ設計に向けた検討を進めた。

所沢図書館では、館内を改修し、ラーニング・コモンズを開設する準備を進めた(詳細は別項「所沢図書館ラーニング・コモンズ開設」を参照)。

中央図書館では、図書館の利用実態把握および学内類似施設であるW Spaceとの利用傾向比較のため、館内利用量調査を実施した。また、中央図書館利用者に対するアンケート調査およびインタビュー調査を行い、ラーニング・コモンズとしての図書館に必要な要素の分析を行い、大枠の設計方針の決定に至った。

館内利用量調査およびアンケート調査については、既にその成果を公開済みである*。今後は具体的な空間設計や、他の館内施設の整備も含めた詳細な検討を続けていく。

※詳細は下記に掲載の記事を参照。

早稲田大学図書館報「ふみくら」No.89 (2016.3)

<http://hdl.handle.net/2065/47716>

「早稲田大学図書館紀要」第64号 (2017.3)

<http://hdl.handle.net/2065/00052331>

7 学内連携の進展

2016年度も、授業支援における各学術院との連携はもちろん、さまざまな活動で学内連携を進展させた。

(1) 他部署との連携

キャリアセンターとの「企業研究に役立つデータベース講習会」、ライティング・センターとの合同ワークショップなどの連携企画を継続している。また、多様化する利用者からの要望に応えるため、障がい学生支援室やダイバーシティ推進室との連携の模索・推進を開始した。

(2) 人事研修での連携

人事課との連携により、専任職員に対する研修も積極的に展開した。4月、9月には新入職員、12月には専任職員のうち希望者を対象として、大学業務全般や調査に役立つ図書館情報検索の研修を実施した。

(3) 広報に関する連携・協力

例年通り、広報課や学生生活課で発行する媒体で学習支援活動を取り上げてもらうとともに、図書館としてのSNSからの情報発信については、大学公式SNSとの連携を図ることで数多くの反響を得ることができた。

(4) 動画コンテンツの制作・公開

「反転授業」教材として利用可能な映像、ガイドコンテンツの整備と充実、魅力的な広報映像の制作に努めた。これらの制作や公開には大学総合研究センターの協力を仰ぎ、今後は大学入試広報への活用も検討している。新入生に対しては、グローバルエデュケーションセンターの「わせたライフABC」へ引き続きコンテンツを提供した。